

ゆっくりだから、気づくもの

島根県 永明寺 住職 萩野泰道

私は、小さい頃から何をしても一番でした。運動は、誰にも負けたことがありません。と、ここまで聞くと、私を知らない人は「すごい人がいるものだ」と思われたかもしれません。しかし、本当のことを言うと、私は何をやらせても、何をやっても、一番どころか、いつも後ろから数えて一番でした。

しかし、そんな時、ゆっくりでも良い、毎日少しずつ歩みを進めることを教えてくれたのは、おばあちゃんだったのです。おばあちゃんは「学校で出来なかった問題のすべてが、自分へのプレゼントだよ、それをコツコツこなしていけば、いつかは勝てる時が来るよ」といって、私の奮起を促してくれました。

この出来ない問題のプレゼントの山と、おばあちゃんの言葉は、その後の私の人間形成に大きな力を与えてくれました。プ

レゼントの山は、ゆっくり解るまで考える力となり、自分が納得いくまで調べたものは自信となって、大きく広がっていききました。月日が経ち、目の前から大きなプレゼントの山が少しずつ消えた時、自分の前を駆け足で通り過ぎた人たちと並び、追い越していることに気づいたのです。

今私は、小さい頃の自分と同じような子どもさんたちから、相談を受けることがあります。そんな時私は「ゆっくりと時間をかけて階段をあがっていけば、確実に何かが見えてくるはず。本当の自分を探して、そこから見えてくることに気づいてほしい」と答えています。

(平成二十六年一月放送)